

341炉、窯を起因物とする死傷災害100事例まで（2019年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2019	1	19 ～ 20	<p>鑄造作業が終わり残湯処理をしていた際、溶解炉を止栓した後に樋上の溶湯をかき出し、RDF槽のノロ（カス）の除去作業を行っていたところ、ノズル調整棒を外すタイミングとRDF槽から溶湯を抜くタイミングが合わず、分配機へ多く溶湯が流れ込み、鑄型からこぼれ出した。その際、こぼれた溶湯と鑄型下の冷却水が反応して溶湯が飛散し、顔面と背中に掛かり熱傷を負った。</p>	20	11	11109	50 ～ 99
2	2019	1	13 ～ 14	<p>共同作業3名、計4名で出口ブレストライナー取り替え作業に従事した。内部で被災者は共同作業者が転がしながら運んできたライナーを、バールを使ってミルに嵌め込んでいた。そのときに、バールが滑り、バランスを崩して右手をついたところに、共同作業者が転がしたライナーが当たり、右手人差し指を骨折した。</p>	43	6	11101	50 ～ 99
3	2019	1	16 ～ 17	<p>造型場で鑄込作業中、型に流し入れようと溶湯（約1400℃）の入った取鍋のハンドルを回したところ、取鍋の流口近くで溶湯が少しはねて微量ながら肩口から作業着の中に入り、左手、脇腹を火傷した。</p>	20	11	11002	10 ～ 29
4	2019	3	10 ～ 11	<p>1号灯樋補修作業のため、溶湯出湯口の固定治具を解除してロックをかけ、補修作業を行っていたところ、体がロックに接触して外れ、固定治具の鉄製棒が落下し、右側背中を強打し右腰を骨折した。</p>	29	4	11109	30 ～ 49
			1	<p>加熱室の給水場からトッピング室に戻る途中、釜の清掃中のため湯</p>				300

5	2019	3	2	～	気で視界が悪く、釜から排出した熱湯に気付かず、履いていた短靴上部にかかり、左足首上部の火傷を負った。	21	11	10109	～	499
6	2019	3	2	1	加熱室の給水場からトッピング室に戻る途中、釜の清掃中のため湯気で視界が悪く、釜から排出した熱湯に気付かず、履いていた短靴上部にかかり、左足首上部の火傷を負った。	21	11	170101	～	99
7	2019	3	15	14	巡回訪問介護事業所にて、火災報知器の反応があり原因を調べたところパンを焦がしたあとが見つかった。この際に煙を多量に吸い込んで喉を痛めた。	25	11	130201	～	99
8	2019	3	1	0	焼却炉内で耐火煉瓦解体作業中、解体範囲の煉瓦が滑落し、被災者の手に当たり左小指を骨折した。	28	4	30302	～	99
9	2019	3	16	15	店内工房の作業台で、お湯15kgを寸胴に入れ計りの上に置き、後ろを向いて作業をしていたところ、寸胴が落下し中のお湯がかかって、両足首の踵側を火傷した。	19	11	80209	～	29
10	2019	3	16	15	キッチン内にてスチームコンベクションオーブンでボイルドエッグを仕込んでいた際、オーブンの扉を開けたときに蒸気が腕に当たり右腕を火傷した。	25	11	140201	1～	9
11	2019	4	6	5	電気炉内で埋床作業（操業により損耗した電気炉の炉床を粉体の耐火物で補修する作業）中、炉壁に付着したスプラッシュ（メタルとスラグの混合物）が落下した。その際、埋床材を均す作業をしていた被災者に接触し、右股関節を脱臼し、臀部と左足に火傷を負った。	34	4	11001	～	999
12	2019	4	16	15	取引先社内工場の加熱炉にて、加熱炉デスケリング装置カバーの設置工事に立ち会っていた。その際、ガイドの上に仮置きした加熱炉側カバーを右手で支えていたところ、加熱炉側カバーがバランスを崩して被災者の方へ倒れ、右手を加熱炉側カバーと水槽の間に挟み負傷した。	30	6	11209	～	49

21	2019	5	14 ～ 15	店舗にある窯の前で、ラックから鉄板を取ろうとして、窯から出したばかりの鉄板を触ってしまい、手のひらと指を火傷した。	39	11	80209	～ 29
22	2019	5	6 ～ 7	レストラン和食の調理場で、朝食準備中、スープジャーに味噌汁を移し替えたところ、床が濡れていて足下が滑り、沸騰した味噌汁の鍋の中に、右手を肘までつけ、右手で体重を支える状態になった。その際、右手を火傷した。	58	11	140101	～ 299
23	2019	5	16 ～ 17	工場にて、予熱炉下での整備中、予熱炉下配管のフラッシングの際、ボルト8本の最後の1本を緩めたとき、熱水が噴出し、熱水を浴び顔、左肩、左上腕、左腹部、左腰部、左大腿等を熱傷を負った。	27	11	11001	～ 299
24	2019	6	10 ～ 11	工場内の電気溶解炉の前でステンレス溶解鑄込み作業をしていたとき、湯が溶け切ったところで炉内部で爆発が起き、溶湯が飛び散って頭部こめかみ左右、右足の甲に火傷を負った。	47	14	11002	～ 29
25	2019	6	10 ～ 11	工場内の電気溶解炉の前でステンレス溶解鑄込み作業をしていたとき、湯が溶け切ったところで炉内部で爆発が起き、溶湯が飛び散って背中と左肩と腰に火傷を負った。	35	14	11002	～ 29
26	2019	6	10 ～ 11	工場内の電気溶解炉の前でステンレス溶解鑄込み作業をしていたとき、湯が溶け切ったところで炉内部で爆発が起き、溶湯が飛び散って背中と右足太腿、右足裏に火傷を負った。	32	14	11002	～ 29
27	2019	6	12 ～ 13	飲食店でうどんのだし汁を寸胴鍋に移しかえていた際、誤って鍋を落とした。そのとき、汁が腹部・両足・右腕に掛かり熱傷を負った。	60	11	140201	～ 29
28	2019	6	2 ～ 3	工場炊飯ライン室で洗米器清掃中、炊飯ラインの、蒸らしCVの不具合のため、CV停止した釜を手動で動かしたときに、熱せられている釜に左手首甲が接触し、火傷を負った。	60	11	10109	～ 299
29	2019	6	12 ～	店内の厨房内にてフライヤーの油の転油作業中、空になったフライヤーを布巾で水拭きする際、油の入った寸胴をバケツと間違えて左	64	11	80201	～

			13	手を入れてしまい火傷を負った。					299
30	2019	6	3 ～ 4	閉店後厨房を社員が掃除中、鍋の蓋を閉める金具に引っ掛かり鍋が倒れ、鍋のスープが隣で掃除をしていた被災者の左足にかかり、火傷をした。	21	11	140201	～ 29	10
31	2019	6	8 ～ 9	施設内にて、計量済み（7.8kg）油脂（113℃）入りの一斗缶を持ち、階段（3段）を下りる際、転倒して一斗缶内部の油脂を顔面から左腕に浴び火傷した。転倒した際、左上腕部に裂傷を負い、あばら骨を折った。	64	11	10909	～ 299	100
32	2019	7	14 ～ 15	1号炉内北側水槽にて鑄込み終わったインゴットを水槽で冷却し、そのインゴットを上げるため、バツカンにフックを掛けるときに不注意で足を滑らせ落ちて、左足の膝下に熱傷を負った。	43	11	11001	～ 49	30
33	2019	7	11 ～ 12	工場の電気炉で注湯作業が終了し、残湯を溜めていた容器に金棒を差し込んだところ、金棒が錆びていたので軽い爆発が起きた。その際、高温の湯が跳ねて左足のブーツに入り、左足踵に火傷を負った。	48	11	11002	1～ 9	
34	2019	7	13 ～ 14	厨房内で茹でた麺をざるに移す際、左手首に湯が掛かり火傷を負った。	40	11	140201	～ 29	10
35	2019	7	16 ～ 17	施設内調理室で時間になったため、炊飯釜のスイッチを入れようとしたところ、既に他の職員がスイッチを入れていたことに気が付かず、熱くなっている炊飯釜の取っ手に触れてしまい、左手指に火傷を負った。	59	11	130201	～ 299	100
36	2019	7	15 ～ 16	店舗の調理場で接客作業中に、沸騰して鍋から吹きこぼれた熱湯が履いていた業務用雨靴の中で入り込み、雨靴を脱ごうとしたが脱げずそのままにしていたところ、左足に火傷を負った。	52	11	140201	～ 29	10
37	2019	7	7 ～	工場前処理室にて、遠心脱水機を使用し蒸気釜から殺菌用の熱湯を運ぼうとして、釜にバケツを入れた際、手袋の継ぎ目が剥がれてお	51	11	10102	～	50

			8	り熱湯が入り、右手首内側部分に熱傷を負った。					99
38	2019	8	9 ～ 10	店舗調理場で、棚の上にポットを置こうとしたところ、ポットが倒れて、中に入っていたスプーンが右足に掛かり火傷を負った。	44	11	140201	～ 29	10
39	2019	8	1 ～ 2	工場内で溶けたアルミを型に流し込むための「とい」にゲートを固定するためゲートの取っ手を右手で持ち、ハンマーを左手で持ち作業をしていた。その際、ゲートの取っ手が折れ、右手が溶けたアルミの中に入り火傷を負った。	39	11	11102	～ 29	10
40	2019	8	15 ～ 16	店舗厨房にて、釜に麺を投入する際に麺棒を掴もうとしたところ、あると思っていた場所に麺棒がなく、そのまま釜に右手を突っ込んで火傷を負った。	20	11	140201	～ 29	10
41	2019	9	21 ～ 22	工場内電気炉で金型を設置する際、金型を押し込むときにバランスを崩した。その際、金型が崩れて指を挟み、左手薬指を切断した。	31	7	11209	～ 49	30
42	2019	9	9 ～ 10	鋳込み場で取鍋に入っている溶湯の温度を測定していた際、他の作業者が取鍋の位置を修正したとき、取鍋が金枠に当たって溶湯が飛び出した。その際、溶湯が被災者の右足に掛かり熱傷を負った。	23	11	11002	～ 99	50
43	2019	9	16 ～ 17	鋳物工場内にて、溶解作業中に電気炉の蓋を閉める際、左足を伸ばしたため負傷した。	59	19	11002	～ 49	30
44	2019	9	11 ～ 12	鍍金釜の釜替え中、釜から垂鉛を取り出し鉄製の容器に移して、しばらくして容器に水を掛けていた（容器から抜けやすくするため）ときに、容器内の垂鉛が跳ねて（容器内の垂鉛がまだ完全に冷めていなかったため）本人の左掌に火傷を負った。	33	11	170101	～ 99	50
45	2019	9	17 ～ 18	中子造型自動運転中に金型上部のカラーの浮き上りが発生し、カラーを直そうとした際、ブロータンクが下降し、右手人差し指を挟まれ負傷した。	36	7	11502	～ 49	30

46	2019	9	23 ～ 24	店舗厨房のフライヤーで揚げ物調理中、手が滑って食材を油に落とし跳ねた油で顔を含む上半身を火傷した。	36	11	140201	1～ 9
47	2019	10	10 ～ 11	クレーンで治具に取り付けたH鋼のメッキ作業中、作業棒のフックが外れた拍子にバランスを崩して前のめりになり、垂鉛浴中に両手両足が入り火傷を負った。	24	11	11204	10 ～ 29
48	2019	10	9 ～ 10	炉に転落し、体全体に火傷を負った。	44	11	30302	1～ 9
49	2019	10	12 ～ 13	炊き上がった餅を番重に移し替える際、傾いてこぼれそうになり、咄嗟に左手を出したところ、熱を帯びた餅が左手甲に接触し、火傷を負った。	47	11	10104	50 ～ 99
50	2019	10	7 ～ 8	1号炉予備傾動実施の際に、出湯部を確認し、振れ防止バーが設置されていないことに気付いた。振れ防止バー取り付けに行ったとき、1号炉より湯が流れ落ち、腰背部に熱傷を負った。すぐにその場を離れて待機したが、1号炉が傾動したと思い込み、傾動を下げようとしたところ、誤って上昇させて湯が出た。その際、湯玉で再び火傷を負った。	36	11	11502	100 ～ 299
51	2019	10	20 ～ 21	茶碗蒸しをコンベクションオーブンで蒸していた際に、オーブンを開けたときの蒸気が左前腕にかかり火傷を負った。	26	11	140201	50 ～ 99
52	2019	10	8 ～ 9	ホテル内厨房にて客のモーニング料理中、床から130cmの高さに置いてあるトースターでグラタン焼いていたとき、グラタンが焼けたのでトースターから取り出そうとした際、きちんと鍋つかみを手にはめず取り出した。その際、バランスを崩して容器の中のグラタンが右手親指皮膚に直接こぼれ火傷を負った。	62	11	140101	10 ～ 29
53	2019	10	5 ～	工場にて、5t電気炉取鍋を台車上へ移動後、台車上で湯漏れに気がつき、慌ててクレーン操作者に連絡するため安全通路を移動した際、	34	11	11002	100 ～

			6	左頬・左足脛・ふくらはぎ・右足膝・右足脛を火傷した。					299
54	2019	11	5 ～ 6	工場内茹で麺室で機械部品の煮沸洗浄消毒中、洗浄後の部品を取り出す際に、専用フックを使用せず、直接手で取り出そうとした。その際、熱湯が手袋を伝って中まで入り、右手前腕部に火傷を負った。	22	11	10109	～ 299	
55	2019	11	17 ～ 18	病院内の厨房で、大きな釜に熱湯を沸かし、床を洗い流す作業をしていた。そのとき、釜にロックを掛けていなかったので釜蓋が傾き、熱湯が流れ出て長靴の中に入り、左足に熱傷を負った。	51	11	130101	～ 499	
56	2019	12	15 ～ 16	工場内で清掃作業中、製材機械から跳ね出た丸太が落ちてきて当たり、転倒した際、右大腿部を強打し骨折した。	58	6	10401	～ 29	
57	2019	12	12 ～ 13	工場内煮炊きフロアにて鶏レバー製造中、大釜に沸かした湯で生の鶏レバーをボイル終了後、大釜のレバーをザルに移そうと大釜を傾けたところ、誤って熱湯が長靴の中に入り、左足に火傷を負った。	38	11	10109	～ 299	
58	2019	12	14 ～ 15	大掃除のため、塗装硬化炉の内部清掃をする際にハッチの脱着作業を2名で行っていた。ハッチを持ち上げるタイミングが合わず、ハッチが足下にずれ落ち、左足親指に切傷を負った。	57	6	170101	～ 499	
59	2019	12	14 ～ 15	工場で大掃除作業中、塗装硬化炉の内部掃除をするため2名の作業員でハッチの着脱作業時に2名で持ち上げた。その際、タイミングが合わず、ハッチが左足親指に落ち、負傷した。	57	6	10805	～ 29	
60	2019	12	15 ～ 16	店内キッチンでフライヤーの清掃中、ダスターで油槽の縁を拭いていたところ、誤って油の中に右手が入り火傷を負った。	38	11	140201	～ 49	
61	2019	12	16 ～ 17	エキス充填機部品を熱湯殺菌し、湯槽より取り出す際に、部品の中に溜まったお湯が自分の長靴の中に入り、右足に火傷を負った。	24	11	10109	～ 29	
			9	ビーフシチューを調理中、230℃に設定したスチームコンベクション				1～	

62	2019	12	～	ンからホテルパンを引き出す際、高温の煮汁が左手にかかり熱傷を	63	11	80209	9
		10		負った。				

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例まで（2019年）](#)に戻る。